

日本国の消滅対策としてのインド人の活用

荒野 喆也

我が国の人口は、二〇〇八年一億二千八百万人をピークにして、現在かなりの速度で縮小しつつある。主な理由は、少子化と海外移住である。現時点の予測によると、二〇五六年には、一億人を下回るといわれており、このままでは国家消滅である。一方この地球全体では、現在約八十億人で増加中であり二一〇〇年には一一〇億人位までは増加すると推定されている。これらの現状から政府としても我が国の異次元の少子化対策を進めている。

対策として最も期待されるのは、日本人の出生率の上昇であるが、これは現代の先進国には期待できないことは明白であり、残る唯一の手立ては、新興国からの人の移動である。

従来は国連データでの世界人口は、中国がトップであったが、つい最近インドが中国を抜いて、十三億二千八百万人でトップに立った。そして、二一〇〇年には十九億人ほどにはなるといわれており、インド人の量的供給能力は十分である。

さて、現在日本の技術的面からの遅れは、いわゆるデジタルトランスフォーメーションDX部門であり、この面での質的補強が不可欠である。

一方、インド人の得意分野はこのデジタル分野である。以前にも説明したが、近来のアメリカで巨大企業は、このデジタル部門が多く、これらの経営トップは殆どがインド人である。歴史的には、数学のゼロの発明国といわれ伝統的な得意分野ではあるようだ。またインドでの現在のデジタル化優位の理由は、インド特有のカースト制度があり、これが社会面でインド人の近代化を妨げているようだ。しかしデジタル系を専攻すると、カースト制度による制約が緩くなり、インド人の知的発達にデジタル化が好循環の要になっている。

インドでは倍率の高いIIT校がインド各所にあり、世界的に競争力のある技術者を送り出している。とにかく我が国の消滅防止に貢献してくれるのは、質的に量的にインド人しかないのではないか。